

# 平成 28 年度学校評価に関する調査集計結果

## 【職員・児童生徒・保護者・関係機関】



本校舎清明祭 幼稚部 劇「ももたろう」



小学部 劇「注文の多い料理店」



中学部 学習成果発表  
「セイメイ GO! ～ぼくらの中学部 Days～」



中学部/高等部「清明太鼓」



中学部/高等部 販売



山目校舎 清明祭



千厩分教室小学部学習発表会



千厩分教室中学部 紅輝祭



「山目市民センターまつり」に出品



あすなろ分教室  
PTA 親子ふれあい行事



千厩分教室中学部  
千厩高校との交流



高等部一関第二高校との交流



千厩分教室小学部フットサル教室



山目校舎親子ふれあい行事「ドラムカフェ」



岩手県立一関清明支援学校

# 平成 28 年度 学校評価に関する調査の結果と分析

一関清明支援学校

平成 29 年 2 月

## ○ はじめに（結果と分析にあたり）

平成 28 年度の学校評価は、平成 28 年 11 月 28 日～12 月 16 日に実施しました。

対象は、「本校職員」、「児童生徒」、「保護者」、そして一昨年度から外部評価として「関係機関」を対象に加え、昨年度から自由記述だけでなく調査項目を設けました。

本校職員については、すべての教職員を対象に実施し、昨年度より、児童生徒については言語による表出ができる児童生徒を対象としました。ただし、教師による読み取りが可能な児童生徒も対象としました。

集計の際には「無回答」の項目を設け、有効回答から除きました。

また、復興教育（「いきる」「かかわる」「そなえる」）について、平成 27 年度から「そなえる」を重点として防災教育の推進としております。

以下、「教職員」「児童生徒」「保護者」「関係機関」の調査結果の概要と分析を述べます。

## 1 教職員（資料 1 参照）の結果・分析

### (1) 全体の傾向

教職員全員に実施し、全員から回答を得ています。自由記述には 8 項目に多くの評価や課題、改善策が寄せられました。評価の全体の傾向としては、プラス評価が 80%を超えた項目は 28 項目/30 項目、マイナス評価が 10%を超えた項目は 2 項目/30 項目（昨年度 6 項目）と、昨年度と比べプラス評価は同数でしたが、マイナス評価が大幅に減りました。

職員アンケートにおいてマイナス評価 10%以上の項目			
(1)学校運営全般	H27 %	H28 %	差ポイント
② 教職員は、お互いに意思疎通を図りながら、信頼関係を築いている。	13.3	9.5	-3.8
④ 学校は、校舎、敷地を清潔に保っている。	13.3	5.5	-5.5
⑤ 学校は、幼児児童生徒の病状や障がいに配慮し、安全な教育環境を整えている。	15.0	8.7	-6.3
⑥ 学校は、会議の精選や意思決定の迅速化を図り、ゆとりや見通しが持てる職場環境の整備に努めている。	35.0	27.5	-7.5
(2)教育活動について			
⑦ 学校は、被災地のニーズに対応した復興教育を推進している。	10.8	10.2	-0.6
(4)研修について			
③ 学校は、校外で開催される研修会や長期休業中の勤務時間外研修に、教職員が参加(申請)しやすい環境づくりに配慮している。(長期休業中の勤務場所外研修の申請を含む)	12.5	8.7	-3.8

### (2) プラス評価（「よくできている」＋「おおむねできている」）

プラス評価の全項目の平均は 94.5%（前年度 92.0%）の 2.5 ポイントの増でした。90%を超えた項目は、26 項目/30 項目（昨年度 22 項目）、その中でも 95%を超える高い評価となったのは、下記 17 項目（昨年度 15 項目）でした。

#### <学校経営全般>

- ① 教育目標や経営方針を適切に設定、実践。 99.2%
- ③ 幼児児童生徒の様子を保護者へ情報提供。 98.4%
- ⑦ 教職員の外部への丁寧な対応。 98.4%
- ⑩ いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくり。 97.7%

以上の 4 項目が 95%をこえる評価でした。自由記述には「保護者への情報提供」「地域との交流」

「工夫をこらした教育実践」を評価する記述（12人、昨年度10人）などがありました。保護者への情報提供、地域との交流等の取組は、本校で大きな成果をあげています。高い評価となったと項目と併せて、今後も活動を広げるべく模索しながら、継続して取り組んでいきます。

また、「いじめ・体罰・差別等を排除する学校づくり」に関しては、プラス評価97.7%となっており、日頃の取り組みを評価していただいたと思っております。今後とも、一層の取り組みをしてまいります。

### <教育活動>

- |                                      |       |
|--------------------------------------|-------|
| ① 幼児児童生徒が有用感をもって学習に参加するよう努めている。      | 99.2% |
| ② 幼児児童生徒の実体、保護者のニーズを反映させた個別の指導計画の活用。 | 99.2% |
| ③ 幼児児童生徒の実体に合わせた健康管理や体力向上の指導。        | 97.7% |
| ④ 気軽に相談したり話しかけたりできるように努めている。         | 99.2% |
| ⑧ 個々の実態やニーズに応じた進路指導を適切に行っている。        | 97.7% |

以上の5項目が95%をこえる評価でした。これらは教育活動の根幹を成す内容です。自由記述には「個に応じた指導」（3人）や「進路に関する指導」（3人）等を評価する記述などがありました。各学部、各校務部において、生徒や保護者のニーズに応える工夫を凝らした取り組みの成果と思われます。また、進路については、3年生本校舎高等部35名、あすなる分教室5名はそれぞれの進路実現に動いています。そのうち、本校舎3年生の就職希望者は11名（一般就労10名・A型1名）で、まだ実習中の生徒もいますが、6名の就職が内定しています。今後も、充実した教育活動を展開していきたいと思っております。

### <学校・保護者・地域の連携>

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| ① 幼児児童生徒の指導に関し、保護者のニーズの把握に努めている。 | 100%  |
| ② 保護者のニーズを反映させた教育活動。             | 100%  |
| ③ 保護者に幼児児童生徒の様子を分かりやすく伝えている。     | 100%  |
| ④ 保護者が相談できる環境づくり。                | 97.6% |
| ⑥ P T A活動に対する適切な支援。              | 99.2% |
| ⑦ 地域の特別支援教育のセンター的役割を十分に果たしている。   | 97.7% |
| ⑧ 医療機関の協力や支援を適切に得られるようにしている。     | 96.0% |

以上の7項目で95%を超える評価でした。これらの項目は、いずれも昨年度に続き高い評価となっています。自由記述には「おはなしサロンなどP T A活動」を評価する記述もあり、「保護者との連携」「福祉・医療・地域との連携」「ホームページ」「一斉メール」を評価する記述などがありました。学校・家庭・地域の連携は、本校が経営方針に掲げる重要項目です。今後も三者の連携の下に元に育ち合う学校づくりを目指していきます。

### <研修>

- |  |       |
|--|-------|
| ② 各学部で授業研究が行われ、幼児児童生徒の社会自立に向け生きる力を高める授業実践。 | 95.3% |
|--|-------|

以上1項目が95%を超える評価でした。

自由記述には「校内研修」への評価（4人）の記述がありました。今年度より研究スタイルを変更し課題別の研究としたことや12月の全体研究会もプラスの評価でした。来年度は、東北大会レベルの研究大会が当一関市で開催されます。校内研究と関連させながら、研究発表も含め授業研究と授業実践をさらに充実させていきたいと思っております。

### (3) マイナス評価（「あまりできていない」＋「できていない」）

マイナス評価の全項目の平均は4.2%（昨年度5.3%、一昨年度6.2%）と3年連続1ポイント程度ずつ減少しました。プラス評価が80%を下回る、または、マイナス評価が10%を超えた項目は2項目であり、昨年度の3項目よりも減少しました。

#### <学校経営>

- ⑤ 会議の精選や意志決定の迅速化、ゆとりや見通しが持てる職場環境の整備

プラス評価70.9%（昨年度62.5%、一昨年度56.1%）：8.4ポイント増（昨年度6.4ポイント増）、マイナス評価27.5%（昨年度35.0%、一昨年度41.2%）：7.5ポイントの減少

自由記述には、職場環境（8人）「環境・衛生面の整備」（6人）、「安全・防災・危機管理」（4人）、など職校舎の施設・設備の改善を求める声が多く見られました。大きな災害も想定し、引き続き緊急時に対応した設備、訓練の実施などが必要です。

#### <教育活動>

- ⑥ 被災地のニーズに対応した復興教育の推進

プラス評価77.2%（昨年度71.7%、一昨年度74.5%）、マイナス評価10.2%（昨年度10.8%、一昨年度14.9%）、わからない：12.6%と。まだまだ工夫に必要性が考えられます。

自由記述には、居住地交流や他校交流、復興教育など、学部ごとの取組を評価する声はありますが、特に改善策などは挙げられていません。“被災地のニーズに対応した”という表現について、本格復興完遂年として教育目標「そなえる」にシフトした防災教育の推進を掲げて教育活動を実践してきましたが、質問項目との整合性に見直しの必要性がありました。また、自由記述での、その実践に即した教職員の意識への指摘など実践内容の工夫がより一層求められると考えます。

#### <研修>

自由記述には「教職員が参加したい研修会への参加体制の整備」を求める記述（7人）がありました。本校は4障がいに対応した支援学校であることから、それぞれの障がい種で大きな研究大会があります。研究部が全体研修計画を立て進めています、さらにそれらを含め限られた予算の中で、各校舎・分教室や学部間のバランスを考慮し、教職員の要望を取り入れ年間の研修への参加体制を計画的に整備し、予算を有効に支出していくように検討することが求められます。また、教員個々の研修のあり方についての工夫も必要と考えます。

### (4) その他

- ⑨危機管理体制を適切に設定し、運用（プラス評価94.2%、マイナス評価5.0%、わからない0.8%）

⑩いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくり（プラス評価95.0%、マイナス評価1.7%、わからない3.3%）については、職員の姿勢として、本来は100%を目指して教育活動を行っているはずですので、学校としては対応を検討していかなければならない課題であると認識しております。特に、いじめ等の排除に関する⑩の設問については、1名でもマイナス評価の職員が存在することは、学校として反省していかなければならないことであると考えております。

## 2 児童生徒（資料2 参照）

### (1) 対象児童生徒について

幼稚部を除く、小学部から高等部までの児童生徒を対象に実施しました。実施回答率は下記のとおりです。昨年度から、児童生徒については言語による表出ができる児童生徒を対象としました。ただし、教師による読み取りが可能な児童生徒も対象としました。

また、同じく昨年度より「無回答」は有効回答から項目ごとに除き、できるだけ実態に近い調査となるようにしましたが、「わからない」については、やはりまだ項目によっては割合が高いものもあり、今後、さらなる検討が必要であると考えます。

実施回答率	小学部	中学部	高等部	全体
	83.7%	86.0%	81.3%	83.1% 74.6%(H27)

### (2) 全体の傾向

プラス評価の全体平均は、下記のとおり。（ ）内は前年度の数値です。小学部は90%以上ですが、中学部・高等部は約80%台となっています。

プラス評価の平均 (昨年度)	小学部	中学部	高等部
	92.3% (92.1%) 0.2ポイント増加	80.2% (84.3%) 4.1ポイント減少	79.5% (74.1%) 5.4ポイント増加

### (3) プラス評価（「はい」と回答）について

#### <小学部>

全6項目中、⑤あぶないところがなくて安全ですか の76.9%を除く5項目において90%以上でした。特に①・②・④・⑥の項目は95%以上のプラス評価でした。

子どもたちが伸び伸びと楽しく学校生活を送っていることが推測されます。

#### <中学部>

全9項目中6項目（①・②・③・④・⑤）がプラス評価80%以上でした。80%を下回った項目でも、⑦他校や居住地交流の生徒と十分に交流できましたか はマイナス評価13.3%、⑧地域や被災地の奉仕活動は良い活動内容でしたか は同3.2%でした。自由記述でも「学習・行事が楽しい」「先生が話を聞いてくれる」など評価する記述が多く見られ（13人）、多くの生徒が、学校生活を楽しく感じ、教職員の学習や学校生活への支援を評価しています。

#### <高等部>

全10項目中8項目（①・②・③・④・⑤・⑥・⑨・⑩）でプラス評価80%以上でした（昨年度は6項目）。80%未満の項目でも、⑦・⑧はC(わからない)がそれぞれ55.4%・33.8%と交流や奉仕活動は限られた学年であり、意識付けに課題が残りました。自由記述では「勉強や作業・行事が楽しかった」などの学習活動・行事を評価する記述、「勉強をわかりやすく教えてくれた」など学習での教職員の支援を評価する記述や「友だちと過ごすのが楽しい」など友人関係を評価する記述、「悩みを先生と一緒に聞いてくれた」など教職員が相談にのってくれたことを評価する記述が見られ、多くの生徒が教職員の支援のもと、充実した学校生活を送っている様子が窺えます。



#### (4) マイナス評価（「いいえ」と回答）について

##### <小学部>

マイナス評価が10%を上回った項目は1項目で、⑤あぶないところがなくて安全ですか の15.4%（6人）でした。（一昨年度は2項目⑤あぶないところがなくて安全ですか、⑥交流学习では友だちと楽しく交流できましたか でした。）

⑤について聞き取り調査を行ったところ、何かの障害物があった訳ではない状況で転倒した経験から「あぶない」と思ったと回答した児童が複数いたことがわかりました。日頃、教員が「あぶないから気をつけましょう」等の言葉がけから「あぶない」というイメージを持ち回答したものと考えられます。

このようなことから、設問の意味が理解できているか等の確認が回答時の配慮として必要だったことが反省点としてあげられます。

今後も、改善されてはいますが、安全管理・危機管理の観点から子どもたちの不安の原因について、教員間で協議をし具体的な支援を検討したいと思います。

##### <中学部>

マイナス評価が10%を上回ったのは下記の1項目で、⑦他校や居住地交流の生徒と十分に交流できましたか はマイナス評価13.3%、わからない23.3%であり、結果の意味について検討が必要と考えます。（昨年度同数①学校が楽しいですか、一昨年度は3項目①、⑦、⑧地域や被災地の奉仕活動は良い活動内容でしたか でした。）

自由記述で学校に馴染めない様子が考えられる生徒（1人）がおり、その原因について検討することが必要と考えられます。

##### <高等部>

マイナス評価が10%を上回ったのはありませんでした。（昨年度1項目①学校が楽しいですか、一昨年度2項目①、⑦一関二高との交流学习では、十分に生徒同士の交流ができましたか でした。）

今後とも生徒達のニーズを把握し、進路実現につなげられるよう支援していくことが必要です。

### 3 保護者（資料3 参照）

#### (1) 全体の傾向

回答率は91.9%（182人/198人・昨年度92.6%、一昨年度88.8%）と高く、自由記述7項目にも延べ167人（昨年度66人・一昨年度142人）がさまざまな評価や改善を求める声を寄せていただき、関心の高さが見て取れます。また、昨年度から無回答を項目ごとの有効回答から除きました。

17項目中9項目（昨年度4項目）で、昨年度よりプラス評価が約倍増しています。また、「わからない（評価できない）」の回答は5.6%（昨年度6.3%・一昨年度7.4%）と、昨年度よりも少なくなり、学校行事やPTA活動への保護者の参加が増えたことや、広報や一斉メール・連絡文書等により学校への保護者の関心が高まった好ましい結果と受け取れます。

#### (2) プラス評価（「よくできている」＋「おおむねできている」）について

プラス評価の全項目の平均は88.0%（昨年度88.8%）でした。プラス評価80%以上の項目は、全17項目中14項目（昨年度同数）、さらに90%を超えた項目は17項目中10項目（昨年度11項目）でした。

- |   |       |
|---|-------|
| ① 教育方針を分かりやすく伝え、達成できるように努力していますか。                     | 94.5% |
| ② 学校の校舎や敷地は、清潔に保たれていますか。                              | 94.5% |
| ③ 幼児児童生徒の病状や障がい配慮し、安全な環境を整えていますか。                     | 96.1% |
| ⑤ 地震や風水害等の非常時に備え、緊急連絡網や備蓄品の整備等の対応を適切に進めていると思いますか。     | 93.9% |
| ⑦ お子さんは、学校で楽しく学習活動に参加していますか。                          | 93.4% |
| ⑧ 学校は、個別の指導計画や教育支援計画に、保護者の願いを反映させていますか。               | 94.5% |
| ⑨ 学校の授業は、お子さんに合った適切な学習活動になっていますか。                     | 92.4% |
| ⑩ 健康管理や体力向上について、お子さんの実態に合わせて適切に行っていますか。               | 92.9% |
| ⑪ 幼児児童生徒一人一人が活躍できるように学校行事を工夫して行っていますか。                | 95.6% |
| ⑫ 保護者宛の文書や広報等で、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、わかりやすく情報提供をしていますか。 | 90.1% |

プラス評価については、自由記述の中でも「児童生徒・保護者への対応」、「校外活動や交流」などの学校経営について、「個々に対応した学習支援」「行事内容の工夫」「地域交流や学校間交流」など教育活動について、「“お話しサロン”などPTAのさまざまな取組」や「日々の連絡帳や学級・学部通信、学校通信“せいめいのき”など学校からの情報提供」「福祉サービスの学習やその他の地域との連携」「一斉メールの発信」など学校・保護者・地域の連携について、「教職員の対応」などその他の項目にも保護者が評価する声や感謝の気持ちを記述しています。日々の教育活動の中で幼児児童生徒の変化や学習や行事の工夫、今年度新たに取組んだ内容にも一つ一つ目を向けていただいております。保護者が常に学校に関心を向け、教職員や地域と一緒に一関清明支援学校を作り上げていこうという姿勢を読み取ることができました。

### (3) マイナス評価（「あまりできていない」＋「できていない」）について

マイナス評価の全項目の平均は3.7%（昨年5.3%）で、1.6ポイントの改善でした。プラス評価が80%を下回った項目は下記の3項目（昨年度同数）でした。マイナス評価が10%を超えたものはありませんでした。

- ⑭ 学校は、お子さんの進路について、十分な情報提供をしていますか。（プラス評価75.9%・プラス評価の昨年度比3.7ポイント減少、マイナス評価8.7%・マイナス評価の昨年度比2.4ポイント改善）
- ⑮ 学校は、地域の福祉サービス等について、十分な情報提供をしていますか。（プラス評価77.0%・プラス評価の昨年度比0.6ポイント増加、マイナス評価9.3%・マイナス評価の昨年度比1.9ポイント改善）
- ⑯ 学校は、ホームページを活用して、十分な情報発信を行っていますか。（プラス評価64.3%・プラス評価の昨年度比5.3ポイントの減少、マイナス評価7.6%・マイナス評価の昨年度比1.7ポイント改善）

⑬の進路情報、⑮の福祉サービスの情報提供については、一昨年度から校舎・学部ごとに研修会を実施しています。来年度は各学部の実態を考慮した内容を吟味・工夫したものを実施していきます。ただ、保護者が望む福祉サービスの形態も多様化しており、今後も、より保護者のニーズに合った研修会のために、ニーズの把握に努め、情報の提供を進めていく必要があります。

⑯のホームページの掲載については、自由記述で更新をまめに行っている学部や内容を評価する声が見られる一方で、校舎や学部間の更新期間に大きな差が見られ、職員からも更新時期を校内で設ける等の改善策が寄せられていますので、内容の見やすさ等の工夫と併せて改善に努めてまいります。その他に自由記述欄で「施設設備」に関する記述で、4障がいに対応した施設設備の改善を求める声が挙げられており、校舎間のバランスを考えながら優先順位をつけて、改善していく必要があります。

また、一昨年度からの新しい設問⑥「いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくり」については「わからない（評価できない）」の回答が10.4%（昨年度14.1%）と依然として高い状況でした。本校では、職員向けの研修会を開催し、組織として対応するなど、一層のいじめ等の未然防止に努めていま

すが、併せて早期に発見・対応できるように小学部・中学部・高等部の児童生徒を対象に「生活アンケート」を実施し、いじめの調査を行っています。その中で、生徒間のトラブルや「いじめ」と感じているという事案や訴えが5名あり、5名とも解決済（過去の事例であったり、いじめではなく“いじわる”であったり、過剰に反応したものであったり、むしろ、いじめている方ではないかとの心配であったりしたため。）です。一つ一つの事案に対していじめ等が発生した場合は、迅速な対応を行っていく体制を取っております。こうした取り組みについても、保護者にわかりやすく発信していきたいと思います。

さらに、ご意見をいただいている「温かい汁物の提供」を要望する声には、一昨年度にまず試行的に汁物の提供やお茶の提供などを実施いたしました。その結果、汁物については、「大量調理安全衛生基準」や「学校給食法」により提供が困難であり、温かいお茶の提供を行ったところです。今年度におきましても、温かいお茶の提供を2月より始めました。

その他にも、自由記述の中にさまざまな具体的かつ建設的な改善要望が寄せられており、これら一つ一つを真摯に受け止め、予算等きびしい状況下ではありますが、実現可能なことから優先的に、子どもの成長に寄り添い、時間をかけて相談しながら今後の学校運営に活かしていきたいと思います。

## 4 関係機関（資料4 参照）

福祉サービス事業所6カ所、継続型支援対象校11校に学校評価を依頼し、15機関から回答をいただきました。昨年度からは自由記述だけではなく、4設問に回答いただきました。自由記述からは、連携に関するプラス評価を多くいただきましたが、地域行事への参加や校外作品展への出品に関して、わからない（評価できない）が25.0%（昨年度29.4%・4.4ポイント減）と高かったことから積極的な情報発信に努めていく必要性を感じております。

### （1）評価する内容

回答をいただいた15の関係機関すべてから、評価する内容の記述がありました。特に①・②・④への評価が高い傾向が考えられます。

評価する内容としては、継続型支援対象校からは「指導方法や授業づくりへ」の助言、「研修会・ケース会議での助言」「進路」「保護者支援」「校内・地域の支援体制」などがありました。福祉サービス事業所からは、学校との連携についての評価がすべての事業所から挙げられています。

### （2）要望や意見

要望としては、一関地域全体のインクルーシブ教育の推進を望む声や本校のセンター校としての役割をさらに期待する記述がありました。インクルーシブ教育については、本校だけではなく地域の学校や関係機関も含め連携を深めながら地域全体として構築していく必要があります。福祉サービス事業所からは、新年度における引き継ぎの方法についてや連携会議の継続と回数の増加を望む声がありました。これらの具体的な改善の要望や意見については個々に対応していきたいと思います。



## 5 三者間（児童生徒・保護者・職員等）の類似した設問における比較

一昨年度の第2回学校評議員会におけるご意見を反映させ、昨年度同様にプラス評価（児童生徒：はい、保護者・職員・関係機関：よくできている＋おおむねできている）の占める割合について比較検討してみました。

### <学校経営全般について>

1 児童生徒⑤ 小：学校には、あぶないところがなく、あんしんですか。

⑤ 中：学校は、安全で過ごしやすいですか。

⑤ 高：学校は、安全で過ごしやすい環境が整えられていますか。

保護者③学校は、幼児児童生徒の病状や障がいに配慮し、安全な教育環境を整えていますか。

職員⑤学校は、幼児児童生徒の病状や障がいに配慮し、安全な教育環境を整えている。

児童生徒平均	保護者	職員
83.9% (昨年 83.5%)	96.1% (昨年 95.4%)	90.5% (昨年 84.2%)

三者間で、最大 12.2ポイント(昨年 11.9ポイント)の差があります。児童生徒への回答への支援をするなど不安の原因を探ったり、危険箇所を見直したりするなど、より一層の環境整備に努めてまいります。

### <教育活動について>

2 児童生徒①小・中・高：あなたは、学校が楽しいですか。

保護者⑦お子さんは、学校で楽しく学習活動に参加していますか。

職員①学校は幼児児童生徒が有用感をもって生き生きと学習活動に参加できるように努めている。

児童生徒平均	保護者	職員
89.8% (昨年 85.0%)	93.4% (昨年 91.1%)	99.2% (昨年 98.3%)

小学部 97.4%(昨年 97.4%)

中学部 83.7%(昨年 84.6%)

高等部 88.3%(昨年 72.9%)

三者間で、最大 9.4ポイント(昨年 13.3ポイント)の差があります。職員の自己評価として取組姿勢としては、生き生きと学習活動に参加できるように努めている姿が推測されますが、より充実した学校生活を送れるよう、児童生徒の声に耳を傾け、長い目で児童生徒の思いに寄り添った支援をより一層心掛けたと思います。

3 児童生徒⑥中・高：先生は、あなたが病気やけがをしないようにするためには、どうすればよいか教えてくれますか。

保護者⑩健康管理や体力向上について、お子さんの実態に合わせて適切に行っていますか。

職員③幼児児童生徒の実態に合わせて、健康管理や体力向上の指導を適切に行っている。

児童生徒平均	保護者	職員
83.1% (昨年 88.8%)	92.9% (昨年 94.3%)	97.7% (昨年 96.7%)

中学部 81.0%(昨年 87.5%)

高等部 85.3%(昨年 90.1%)

三者間で、最大 14.6ポイント(昨年 7.9ポイント)と差が大きくなりましたが、三者とも 80%以上であり、より現実的で自分のことに関心を持つような工夫などで、生涯にわたって健康な生活を自分だけでなく家族をも含めて送れるように生活実態の指導となるように指導を検討しながら進めてまいります。

4 児童生徒⑥小：（交流学习では）友だちと、楽しく交流できましたか。

⑦中：（交流学习では）他校や居住地校の生徒と十分に交流できましたか。

⑦高：一関二高との交流学习では、十分に生徒同士の交流ができましたか。

保護者⑫学校は、地域や居住地校等との交流学习や共同学習を十分に行っていますか。

職員⑤学校は、地域や居住地校との交流や共同学習を積極的に推進している。

児童生徒平均	保護者	職員
66.4% (昨年 74.0%)	83.6% (昨年 81.6%)	92.9% (昨年 95.0%)

小学部 97.4%（昨年度 94.4%・一昨年度 77.8%）、わからない 0%（昨年 5.6%）

中学部 63.3%（昨年度 87.5%・一昨年度 52.8%）、わからない 23.3%（昨年 6.3%）

高等部 38.5%（昨年度 40.0%・一昨年度 37.7%）、わからない 55.4%（昨年 56.9%）

三者間で、最大 26.5 ポイント（昨年 21 ポイント）の差があります。

小学部については、交流学习や居住地交流を活発に行っており、児童も充実していると感じていると推察されます。中学部については、交流活動の参加者が少なく、学校間活動の取組が課題であると考えられます。高等部では一部の生徒による活動であったことや発達段階を考慮しても、学習活動の位置づけとしての指導に課題があると考えられることから、内容や在り方を検討していきたいと思えます。加えて、設問内容の見直しをいたします。

### <学校・保護者・地域の連携について>

5 保護者⑬学校は、保護者宛ての文書や広報等で、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、わかりやすく情報提供をしていますか。

職員③学校は、保護者に対して、幼児児童生徒の様子をわかりやすく伝えている。

保護者	職員
90.1% (昨年 94.0%)	100% (昨年 98.3%)

二者間で、0.9 ポイント（昨年 4.3 ポイント）の差がありますが、90%以上の評価があり、二者の認識がおおむね一致していると考えられます。

しかしながら、文書等が集中したり、わかりにくい文面であったりする可能性について検討し、改善してまいります。

6 生徒⑨高：先生は、進路について十分な情報を提供してくれますか。

保護者⑭学校は、お子さんの進路について、十分な情報提供をしていますか。

職員⑤学校は、保護者に対して、進路に関する十分な情報を提供している。

高等部生徒	保護者	職員
88.3% (昨年 78.3%)	75.9% (昨年 79.6%)	93.7% (昨年 87.5%)

三者間で、最大 17.8 ポイント（昨年 9.2 ポイント）の差と昨年に比し大きなものとなりましたが、生徒は 10 ポイントの改善となっています。一方、保護者は 3.7 ポイント減少し、情報提供が十分とは言えない状況であると考えられることから、生徒や保護者のニーズの把握とそれに応じた内容の、きめ細かい情報提供をより一層努めていきたいと思えます。

- 7 保護者⑰学校は、PTA 活動に適切な支援を行っていますか。  
職員⑥学校は、PTA 活動に対して、適切な支援を行っている。

保護者	職員
80.3% (昨年 90.7%)	99.2% (昨年 97.5%)

二者間で、18.9ポイント(昨年 6.8ポイント)と大きな差になりました。職員は95%を超える評価であり、二者の認識にずれが生じていることが考えられます。「おはなしサロン」などの活動が評価されている中で、PTA活動をより活発化するようニーズの把握と情報共有に努めたいと思います。また、PTA活動が平日に多く参加できないという指摘があり、活動日についても検討していきたいと思います。

- 8 職員⑦学校は、地域の特別支援教育のセンター的役割を行っている。  
関係機関②学校は、支援学校としての地域教育機関への支援をしていると思いますか。

職員	関係機関
97.7% (昨年 96.7%)	100% (昨年 100%)

二者間で、0.3ポイント(昨年 3.3ポイント)の差と非常に小さく、95%以上の評価であり、二者の認識がおおむね一致し機能していると考えられます。(関係機関は母数が15のため、参考値)

- 9 保護者⑱学校は、ホームページを活用して、十分な情報発信を行っていると思いますか  
職員⑨学校は、広報やホームページを活用して、学校の情報の公開と発信に努めている。  
関係機関①学校は、地域等へ行事等を発信したり、ホームページなどを通して情報発信したりしていると思いますか。

保護者	職員	関係機関
64.3% (昨年 69.6%)	92.9% (昨年 90.8%)	93.8% (昨年 90.7%)

三者間で、最大 29.5ポイント(昨年 21.2ポイント)の差と昨年よりもさらに大きな値となりました。自由記述には、ホームページの更新回数の増加を求めるなどの記述が多く、タイムリーな全体への情報の公開と発信については活用するメリットが大きく、そのための活用であることの周知に努めるとともに、ホームページの更新等に努力していきたいと思います。また、紙媒体でも、配布回数を見直すなど、できる限りお知らせしていく予定としております。(関係機関は母数が15のため、参考値)

## 6 学校評議員からの意見・提言

- (1) きめ細かい報告を聞かせてもらった。子供たち個々のニーズに込んでいる様子がうかがえる。交流及び共同学習など「共に学ぶ」をキーワードに、今後とも日本型インクルーシブ教育の推進をお願いしたい。
- (2) 「研修」をするということは専門性の向上につながるものであるので、より一層校内研修の充実に努めて欲しい。
- (3) 卒業生を見ると、「積極的にチャレンジする」「汚い・皆が嫌がることにも取り組む」という姿勢を感じる。まさに「学校目標をきちんと知って身につけている」ことではないかと思う。気遣い・仲間意識の強いと感じるが、教育の結果であると思う。
- (4) 評価というのは、いい評価をいただいても一つのミスでひっくり返るもの。丁寧に行うようなゆとりを持ちたい。
- (5) A型：労働契約によるもの、B型：訓練等という分け方を知らない保護者もいると思うので、説明があると理解しやすいと思う。
- (6) 学校のホームページは、対象をどこにしているのか曖昧であると感じた。その辺の分けをすればよりわかりやすいものになるのではないか。

## 7 校長お礼のことば

心強い提言ありがとうございました。教職員は自信を持って仕事に取り組んでいると考えますが、一方で、自分の仕事を振り返る謙虚さも併せて持ちたいと思っています。

また、学校は授業を通して子供たちを育てる場ですので、行った指導が子供たちに「どれだけ伝わっているか」を見極め、「地域」とのつながりを大切にしながら、段階を踏まえた指導を心がけたいと考えます。

会議の精選については、資料の事前の確認や校舎の移動を短縮化するなどの工夫をしていきたい。

「いじめ防止」の問いは「学校の土壌作り」として考えていることから、100%にならないことは残念に思います。今後、自分たちの仕事のあり方の見直しも含めて、自己理解・思いやり・命の大切さを重点に教育活動を進めてまいります。

1 回答数・回答率

校舎・分教室	教職員数	回答数	回答率
本校舎(事務部含む)	84人	84人	100.0%
山目校舎	22人	22人	100.0%
あすなろ分教室	9人	9人	100.0%
千厩分教室	14人	14人	100.0%
合計	129人	129人	100.0%

2 設問への回答結果

A:よくできている	B:おおむねできている	
C:あまりできていない	D:できていない	E:わからない(評価できない)

(1)「学校経営全般」について

①学校は、教育目標・経営方針を適切に設定し、達成できるように実践している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
37.8%	61.4%	0.0%	0.8%	0.0%	99.2%	0.0%
99.2%		0.8%		0.0%		

②教職員は、お互いに意思疎通を図りながら、信頼関係を築いている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
27.6%	62.2%	8.7%	0.8%	0.8%	85.8%	4.0%
89.8%		9.5%		0.8%		

③学校は、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、保護者に適切に情報提供をしている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
43.3%	55.1%	1.6%	0.0%	0.0%	99.2%	-0.8%
98.4%		1.6%		0.0%		

④学校は、校舎、敷地を清潔に保っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
28.3%	66.1%	5.5%	0.0%	0.0%	85.8%	8.6%
94.4%		5.5%		0.0%		

⑤学校は、幼児児童生徒の病状や障がいに配慮し、安全な教育環境を整えている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
30.7%	59.8%	7.9%	0.8%	0.8%	84.2%	6.3%
90.5%		8.7%		0.8%		

⑥学校は、会議の精選や意志決定の迅速化を図り、ゆとりや見通しが持てる職場環境の整備に努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
19.7%	51.2%	24.4%	3.1%	1.6%	62.5%	8.4%
70.9%		27.5%		1.6%		

⑦教職員は、来客や電話等、外部に対する丁寧な応対に心がけている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
49.6%	48.8%	0.8%	0.0%	0.8%	99.2%	-0.8%
98.4%		0.8%		0.8%		

⑧学校は、地域の教育資源(施設・機関)を活用した教育活動を行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
37.8%	55.1%	5.5%	0.0%	1.6%	91.7%	1.2%
92.9%		5.5%		1.6%		

⑨学校は、危機管理体制を適切に設定し、運用している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
33.1%	60.6%	4.7%	0.0%	1.6%	94.2%	-0.5%
93.7%		4.7%		1.6%		

⑩学校は、いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくりに努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
52.8%	44.9%	0.8%	0.0%	1.6%	95.0%	2.7%
97.7%		0.8%		1.6%		

(2)「教育活動について」について

①学校は、幼児児童生徒が有用感をもって生き生きと学習活動に参加できるように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
48.8%	50.4%	0.8%	0.0%	0.0%	98.3%	0.9%
99.2%		0.8%		0.0%		

②学校は、幼児児童生徒の実態や保護者のニーズを反映させた個別の指導計画を作成し、活用している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
43.3%	55.9%	0.8%	0.0%	0.0%	96.7%	2.5%
99.2%		0.8%		0.0%		

③学校は、幼児児童生徒の実態に合わせて、健康管理や体力向上の指導を適切に行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
45.7%	52.0%	1.6%	0.0%	0.8%	96.7%	1.0%
97.7%		1.6%		0.8%		

④教職員は、幼児児童生徒が気軽に相談したり話しかけたりできるように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
54.3%	44.9%	0.8%	0.0%	0.0%	94.2%	5.0%
99.2%		0.8%		0.0%		

⑤学校は、地域や居住地校との交流や共同学習を積極的に推進している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
49.6%	43.3%	2.4%	0.0%	4.7%	95.0%	-2.1%
92.9%		2.4%		4.7%		

⑥学校は、キャリア教育の視点を取り入れ幼児児童生徒の将来を見通した教育を行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
29.1%	63.8%	4.7%	0.0%	2.4%	90.0%	2.9%
92.9%		4.7%		2.4%		

⑦学校は、被災地のニーズに対応した復興教育を推進している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
20.5%	56.7%	10.2%	0.0%	12.6%	71.7%	5.5%
77.2%		10.2%		12.6%		

⑧学校は、個々の生徒の実態やニーズに応じた進路指導を適切に行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
39.4%	58.3%	0.8%	0.0%	1.6%	87.5%	10.2%
97.7%		0.8%		1.6%		



(3) 「学校・保護者・地域の連携」について

①教職員は、幼児児童生徒の指導に関して、保護者や家庭のニーズの把握に努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
44.1%	55.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
100.0%		0.0%		0.0%		

②学校は、保護者や家庭のニーズを反映させた教育活動を行うように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
40.2%	59.8%	0.0%	0.0%	0.0%	98.3%	1.7%
100.0%		0.0%		0.0%		

③学校は、保護者に対して、幼児児童生徒の様子を分かりやすく伝えている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
55.1%	44.9%	0.0%	0.0%	0.0%	98.3%	1.7%
100.0%		0.0%		0.0%		

④教職員は、保護者が気軽に相談できる環境づくりに努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
47.2%	50.4%	1.6%	0.0%	0.8%	96.7%	0.9%
97.6%		1.6%		0.8%		

⑤学校は、保護者に対して、進路に関する十分な情報を提供している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
38.6%	55.1%	3.9%	0.0%	2.4%	87.5%	6.2%
93.7%		3.9%		2.4%		

⑥学校は、PTA活動に対して、適切な支援を行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
55.9%	43.3%	0.0%	0.0%	0.8%	97.5%	1.7%
99.2%		0.0%		0.8%		

⑦学校は、地域の特別支援教育のセンター的役割を十分に果たしている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
51.2%	46.5%	1.6%	0.0%	0.8%	96.7%	1.0%
97.7%		1.6%		0.8%		

⑧学校は、医療機関の協力や支援を適切に得られるように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
47.2%	48.8%	2.4%	0.0%	1.6%	91.7%	4.3%
96.0%		2.4%		1.6%		

⑨学校は、広報やホームページを活用して、学校の情報の公開と発信に努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
48.0%	44.9%	7.1%	0.0%	0.0%	90.8%	2.1%
92.9%		7.1%		0.0%		

(4) 「研修」について

①校内での研修会が十分に行われ、教職員の指導力の向上に役立っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
32.3%	58.3%	8.7%	0.0%	0.8%	94.2%	-3.6%
90.6%		8.7%		0.8%		

②各学部における授業研究が十分に行われ、幼児児童生徒の将来の社会自立に向け、生きる力を高める授業実践が行われている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
37.0%	58.3%	3.1%	0.0%	1.6%	96.7%	-1.4%
95.3%		3.1%		1.6%		

③学校は、校外で開催される研修会や長期休業中の勤務場所外研修に、教職員が参加(申請)しやすい環境づくりに配慮している。(長期休業中の勤務場所外研修の申請を含む)

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
38.6%	51.2%	7.9%	0.8%	1.6%	85.8%	4.0%
89.8%		8.7%		1.6%		

# 平成28年度 学校評価に関する調査結果【児童生徒】

資料2

## 1 回答数および回答率(幼稚部4名は実施せず)

校舎・分教室	小学部	中学部	高等部	在籍数計	回答数	回答率
本校舎	7人	36人	76人	119人	113人	95.0%
山目校舎	27人			27人	23人	85.2%
あすなろ分教室	2人	5人	10人	17人	1人	5.9%
千厩分教室	7人	9人		16人	13人	81.3%
在籍数計	43人	50人	86人	179人	150人	83.8%
回答数	41人	32人	71人	144人		
回答率	95.3%	64.0%	82.6%	80.4%		

## 2 設問への回答結果(無回答を除いた回答数に対する各項目の割合を%で表示)

A:はい	B:いいえ	C:わからない
------	-------	---------

- ① (小)あなたは、学校が楽しいですか。
- ① (中)あなたは、学校が楽しいですか。
- ① (高)あなたは、学校が楽しいですか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	97.4%	2.6%	0.0%	97.4%	0.0%
中学部	83.7%	4.7%	11.6%	84.6%	-0.9%
高等部	88.3%	3.9%	7.8%	72.9%	15.4%

- ② (小)先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいますか。
- ② (中)先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいますか。
- ② (高)先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	95.0%	0.0%	5.0%	84.2%	10.8%
中学部	85.7%	7.1%	7.1%	87.5%	-1.8%
高等部	88.3%	1.3%	10.4%	88.7%	-0.4%

- ③ (小)先生は、あなたの話をきいてくれますか。
- ③ (中)先生は、あなたが困ったときや悩みがあるときに、相談にのってくれますか。
- ③ (高)先生は、あなたが困ったときや悩みがあるときに、相談にのってくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	94.9%	0.0%	5.1%	94.7%	0.2%
中学部	92.9%	4.8%	2.4%	77.5%	15.4%
高等部	87.2%	1.3%	11.5%	82.6%	4.6%

- ④ (小)先生は、あなたががんばったことをほめてくれますか。
- ④ (中)先生は、あなたが努力したことを認めてくれますか。
- ④ (高)先生は、あなたが努力したことを認めてくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	92.3%	5.1%	2.6%	97.4%	-5.1%
中学部	85.7%	2.4%	11.9%	90.0%	-4.3%
高等部	88.5%	2.6%	9.0%	84.3%	4.2%

- ⑤ (小)学校には、あぶないところはなくて、安心ですか。
- ⑤ (中)学校は、安全で過ごしやすいですか。
- ⑤ (高)学校は、安全で過ごしやすい環境が整えられていますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	76.9%	15.4%	7.7%	84.2%	-7.3%
中学部	92.9%	0.0%	7.1%	85.0%	7.9%
高等部	81.8%	2.6%	15.6%	81.4%	0.4%

- ⑥ (中)先生は、あなたが病気やけがをしないようにするためには、どうすればよいか教えてください  
 ⑥ (高)先生は、あなたが病気やけがをしないようにするためには、どうすればよいか教えてください

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
中学部	81.0%	9.5%	9.5%	87.5%	-6.5%
高等部	85.3%	1.3%	13.3%	90.1%	-4.8%

- ⑥ (小) (交流学习では)友だちと楽しく交流できましたか。  
 ⑦ (中) (交流学习では)他校や居住地校の生徒と十分に交流できましたか。  
 ⑦ (高)一関二高との交流学习では、十分に生徒同士の交流ができましたか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	97.4%	2.6%	0.0%	94.4%	3.0%
中学部	63.3%	13.3%	23.3%	87.5%	-24.2%
高等部	38.5%	6.2%	55.4%	40.0%	-1.5%

- ⑧ (中)地域や被災地の奉仕活動は、良い活動内容でしたか。  
 ⑧ (高)地域や被災地の奉仕活動は、良い活動内容でしたか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
中学部	67.7%	3.2%	29.0%		67.7%
高等部	63.4%	2.8%	33.8%	41.2%	22.2%

- ⑨ (高)先生は、進路について十分な情報を提供してくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
高等部	88.3%	0.0%	11.7%	78.3%	10.0%

- ⑨ (中)先生は、進路について相談にのってくれますか。  
 ⑩ (高)先生は、あなたの進路実現に向けて相談にのってくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
中学部	69.0%	4.8%	26.2%	75.0%	-6.0%
高等部	85.7%	0.0%	14.3%	81.4%	4.3%

# 平成28年度 学校評価に関する調査結果【保護者】

資料3

## 1 回答数・回答率(兄弟姉妹が在籍する場合は、保護者が1回のみでの回答として集計)

校舎・分教室	幼児児童生徒数	保護者数	回答数	回答率
本校舎	133人	130人	120人	92.3%
山目校舎	29人	29人	27人	93.1%
あすなる分教室	18人	18人	14人	77.8%
千厩分教室	21人	21人	21人	100.0%
合計	201人	198人	182人	91.9%

## 2 設問への回答結果(無回答を除いた回答数に対する各項目の割合を%で表示)

A:よくできている	B:おおむねできている
C:あまりできていない	D:できていない
E:わからない(評価できない)	

### (1)「学校経営全般」について

①学校は、教育方針を分かりやすく伝え、達成できるように努力していますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
54.9%	39.6%	2.2%	0.0%	3.3%	94.9%	0%
94.5%		2.2%		3.3%		

②学校の校舎や敷地は、清潔に保たれていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
58.2%	36.3%	4.4%	0.5%	0.5%	94.3%	0%
94.5%		4.9%		0.5%		

③学校は、幼児児童生徒の病状や障がい配慮し、安全な教育環境を整えていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
53.8%	42.3%	0.0%	0.0%	3.8%	95.4%	1%
96.1%		0.0%		3.8%		

④学校は、地域の教育資源(施設・機関)を活用した教育活動を行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
42.3%	47.3%	0.5%	0.5%	8.8%	89.1%	0%
89.6%		1.0%		8.8%		

⑤学校は、地震や風水雪害等の非常時に備え、緊急連絡網や備蓄品の整備等の対応を適切に進めていると思いますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
60.4%	33.5%	.	.	6.0%	90.2%	4%
93.9%		0.0%		6.0%		

⑥学校は、いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくりに努めていると思いますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
46.2%	41.8%	0.5%	0.5%	10.4%	82.4%	6%
88.0%		1.0%		10.4%		

(2) 「教育活動について」について

⑦お父さんは、学校で楽しく学習活動に参加していますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
64.3%	29.1%	2.7%	1.6%	1.6%	91.4%	2%
93.4%		4.3%		1.6%		

⑧学校は、個別の指導計画や教育支援計画に、保護者の願いを反映させていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
52.2%	42.3%	1.6%		3.3%	93.1%	1%
94.5%		1.6%		3.3%		

⑨学校の授業は、お子さんに合った適切な学習内容になっていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
47.3%	45.1%	2.7%	0.5%	3.3%	90.9%	1%
92.4%		3.2%		3.3%		

⑩学校は、健康管理や体力向上について、お子さんの実態に合わせて適切に行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
52.2%	40.7%	4.9%	0.5%	1.1%	94.3%	-1%
92.9%		5.4%		1.1%		

⑪学校は、幼児児童生徒一人一人が活躍できるように学校行事を工夫して行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
53.3%	42.3%	1.1%	0.0%	2.7%	93.7%	2%
95.6%		1.1%		2.7%		

⑫学校は、地域や居住地校等との交流学习や共同学習を十分に行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
38.5%	45.1%	4.9%	2.2%	7.1%	81.6%	2%
83.6%		7.1%		7.1%		

(3) 「学校・保護者・地域の連携」について

⑬学校は、保護者宛の文書や広報等で、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、わかりやすく情報提供をしていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
60.4%	29.7%	2.7%	0.0%	1.1%	94.0%	-4%
90.1%		2.7%		1.1%		

⑭学校は、お子さんの進路について、十分な情報提供をしていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
35.2%	40.7%	8.2%	0.5%	7.7%	79.6%	-4%
75.9%		8.7%		7.7%		

⑮学校は、地域の福祉サービス等について、十分な情報提供をしていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
31.9%	45.1%	9.3%	0.0%	7.7%	76.4%	1%
77.0%		9.3%		7.7%		

⑯学校は、ホームページを活用して、十分な情報発信を行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
30.8%	33.5%	7.1%	0.5%	17.6%	69.6%	-5%
64.3%		7.6%		17.6%		

⑰学校は、PTA活動に対して、適切な支援を行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
45.1%	35.2%	2.2%		9.3%	90.7%	-10%
80.3%		2.2%		9.3%		



1 回答数・回答率

関係機関	依頼数	回答数	回答率
福祉サービス事業所	6	6	100.0%
継続型支援対象校	11	9	81.8%
計	17	15	88.2%

2 設問への回答結果

A:よくできている	B:おおむねできている	
C:あまりできていない	D:できていない	E:わからない(評価できない)

- (1) 学校は、地域等へ行事等を発信したり、ホームページなどを通して情報発信したりしていると思いますか。

A	B	C	D	E
50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	0.0%
<b>93.8%</b>		6.3%		0.0%

- (2) 学校は、支援学校としての地域教育機関への支援をしていると思いますか。

A	B	C	D	E
81.3%	18.7%	0.0%	0.0%	0.0%
<b>100.0%</b>		0.0%		0.0%

- (3) 学校は、地域行事への参加や校外作品展への出品を積極的に行っていると思いますか。

A	B	C	D	E
25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%
<b>75.0%</b>		0.0%		25.0%

- (4) 学校は、関係機関との連携を密に行っていると思いますか。

A	B	C	D	E
68.8%	25.0%	0.0%	0.0%	6.3%
<b>93.8%</b>		0.0%		6.3%